

巻頭言

短期大学部部长 遠山佳治

中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年）の答申では、高等教育と社会の関係について、「教育と研究を通じた活動を社会に発信し」「地域社会の核」になることが求められており、産業界や地方公共団体等との連携を深めていくことが期待されています。

まず「教育を通じた活動の社会発信」としては、主に学生による地域貢献活動があります。とくに、総合科学研究所「開かれた地域貢献事業」の瑞穂児童館で開催しているクリスマスイベントでは、大学・短大の学生たちが活躍しています。短期大学は職業や実際の生活に必要な能力を育成する教育機関であるため、教員の指導のもと学生たちが主体的に多様な展開を継続しています。瑞穂区との連携事業である、瑞穂区子育てサロン「さくらひろば」や「瑞穂区民祭り」「スポーティブ・ライフ in 瑞穂」の参加をはじめ、マックスバリュ東海との産学連携食育活動、名女カフェの開催、瑞穂区地域情

報誌「瑞穂 Promenade」の作成、草木染ボランティア活動など、長年にわたり教育を通じた地域貢献活動を推進してきました。

次に「研究を通じた活動の社会発信」としては、教員の専門性を活かした講演活動等があります。瑞穂生涯学習センターとの共催で実施している公開講座、総合科学研究所「開かれた地域貢献事業」の瑞穂保健所との共催セミナー、越原記念館のコンサートや展示解説などがあります。とくに短期大学部では、コロナ禍の今年度、本学を会場として、愛知県委託で現任保育士のキャリア・アップ研修および初任研修と認可外保育施設従事者研修を開催し、保育士の離職問題や保育現場の事故等喫緊の課題防止のために尽力しました。

このように、「教育」と「研究」の両輪で、地域連携の諸活動を今後も一層進展させていき、地域社会とともに成果を積み続けていきたいと思っております。

健康科学部

令和2年11月～12月(3回)実施

公開講座 いつまでも健やかな生活を

瑞穂生涯学習センターとの共催で行われた公開講座（2020.12.4）において、“コグニサイズで頭も身体も健康に”というテーマで講演を行いました。わが国では認知症の増加が問題となっています。令和元年の認知症施策大綱では、70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目標に掲げ、国民に通いの場における活動の推進や正しい知識と理解に基づいた予防を含めた「備える」ことなどが盛り込まれました。そこで、認知症と予防行動の理解のために、認知症の病気の特徴とコグニサイズという国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題（計算、しりとりなど）を組み合わせた運動を紹介しました。コグニサイズは、運動で体の健康を促すと同時に、脳の活動を活発にする機会を増やし、認知症の発症を遅延させる効果があるといわれています。今回は、認知症の予防を取り上げて紹介しましたが、健やかな生活を営むためには継続した取り組みが大切です。できることからコツコツとはじめていきましょう。

（文責：福田峰子）



公開講座の風景



コグニサイズの一例

健康科学部

毎年10～12月(計6回)

※ R2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止

なごや健康カレッジ

名古屋女子大学では毎年名古屋市との連携事業として「なごや健康カレッジ」を実施しております。瑞穂区にお住いの40歳以上の方々と一緒に「おいしく食べて健康に めざせ燃えるからだメタボリックをやっつけろ」と題して、健康の維持増進のために必要な食事と運動について学び、体験していただく講座を10月から12月までの3か月間で6回コースで行っております。定員50名コースですので毎年多くの地域の方々との交流を深めております。

（文責：片山直美）



参加者全員で健康体操

● 家政学部 令和3年1月30日実施

エシカル消費で社会貢献！ 「名古屋市 消費生活フェア 2020」に参加

消費者教育ゼミの4年生5名が、1月30日にイオンモールナゴヤドーム前で開催された「消費生活フェア」にパネルを出品しました。テーマは「エシカル消費で社会貢献」とし、わたしたちができる地球に優しい消費について展示しエシカル消費の啓発に貢献しました。今回は新型コロナウイルス感染拡大により、来場者へ対面での説明はできませんでしたが、環境保全のポスターや商品を展示し、オリジナルのパンフレットを自由に持ち帰っていただきました。今後も名古屋市や地域と協働し積極的に活動をしていきます。

(文責：三宅元子)



パネル展示会場の様子

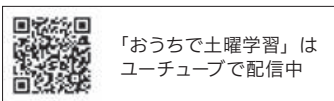
● 文学部 令和2年度実施

おうちで土曜学習

児童教育学科では平成29年度より名古屋市教育委員会の名古屋土曜学習プログラムに連携・協力して、児童がわくわくする体験授業を、小学校の土曜授業として提供してきました。令和2年度も3つの小学校で授業提供の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で全ての講座が中止となりました。その代わりに、児童が家庭で体験授業が受けられるように動画配信による「おうちで土曜学習」となり、本学科から3名の教員が、動画での講座提供を行いました。その内容は、「ドレミを体で表そう～ボディパーカッション～」(坪井)、「正二十面体を作ろう」(山本)、「空気ロケット発射」(吉川)で、音楽、算数、理科の講座を提供しました。名古屋市教育委員会生涯学習課チャンネルで公開配信しています。

令和3年度の予定では、これまで通り3つの小学校で12の授業提供により、楽しく学べる土曜授業を行う予定で、学生ボランティアも多くが参加できるようになっています。

(文責：吉川直志)



ドレミを体で表そう



空気ロケット発射

● 短期大学部・保育学科 令和2年度作成

「さくらっこのうた」CD化

「さくらっこのうた」は、瑞穂区役所で毎月開催している子育てサロン「さくらひろば」で参加者の方が楽しんでいただくための遊び歌です。音楽収録の依頼を区役所より保育学科教員が受け、生活学科と協力してCDを制作することになりました。ジャケットとレーベルのデザインは、生活学科の学生19名の作品を瑞穂区役所ロビーに展示して、区民の方々に選んでいただきました。区民の方々と区役所、短期大学部両学科が協力し合い、完成することができ、大変嬉しく思いました。

(文責：河合玲子・白石朝子)



完成した CD デザイン

● 短期大学部・保育学科 令和2年11月実施

児童虐待防止「オレンジリボンキャンペーン」

「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。毎年11月は、児童虐待防止推進月間として、全国各地でキャンペーンが行われます。令和2年は、瑞穂区役所でも区民の皆さんからメッセージを募集するキャンペーンが催され、ハート形のオレンジカードで飾られた3基のツリーが設置されました。

保育学科の第一部1年生と第三部2年生の学生150名もこのキャンペーンに賛同し、子ども虐待防止につながる社会や、世の中の子もたちに宛てたメッセージを書いて瑞穂区役所へ届けました。カードには、「あなたの笑顔がいちばん素敵!」、「ひとりで



瑞穂区役所に設置されたツリー(2枚とも)

苦しまないで!」、「つらいは、誰かに伝えよう!」といったメッセージや、「見て見ぬふりは見られている」、「みんなが幸せになれるような社会を目指そう!」などのメッセージが寄せられ、学生の子もたちへの温かな気持ちが伝わってきました。

(文責：河合玲子)

マックスバリュ東海(株)との「産学連携食育活動」

生活学科の特色ある教育科目「地域貢献演習」において、平成27年度からマックスバリュ東海と連携した食育活動を行っています。マックスバリュ東海は、地域のお客様への食育活動として、店頭でのレシピカードの設置などに取り組んでいます。授業では、店舗の売り出し食材やテーマに合わせたレシピを提案し、カードを作成しています。また、カード設置期間にマックスバリュ店舗において、試食イベントを行っています。今年度は、「春キャベツと豚バラ肉の濃厚チーズパスタ」など3品のレシピカードが完成し、2月1日から愛知県内では瑞穂通店、東海荒尾店、大府店などの店舗で配布され、企業ホームページにも掲載されました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年実施していました試食イベントは中止となりました。学生は、企業の企画担当者との打ち合わせやレシピ内容の調整などの産学連携食育活動を通じて、社会の一員としての責任の重さを感じたのではないかと思います。

(文責：阪野朋子)



授業内でレシピの評価を行う様子



完成したレシピカードとホームページ掲載

瑞穂プロムナードの作成

短期大学部生活学科では、瑞穂区役所と協働で地域を紹介する広報紙「瑞穂 Promenade」を作成しています。今号では、1年生12名が、コロナ禍で疲れた心にエネルギーを届けたいとの思いを込めて、テイクアウト特集を組みました。取材先に何度も足を運び、お話を聞かせていただいたり試食をしたりしました。取材先の思いやメニューのおいしさを伝えられるように、写真の撮り方や紙面のレイアウトを工夫しました。コロナ禍で予定通り進まないこともありましたが、学生はスケジュール調整をしたり、関係する人々に欠かさず連絡を取ったりと臨機応変に活動しました。11月に完成し、地下鉄瑞穂区役所駅などの公共施設を中心に配布しました。

(文責：箕浦恵美子)



紙面の打ち合わせをする学生

企画展「学生作品選抜展2021」から3作品 中部デザイン協会の「卒業制作奨励賞」を受賞

越原記念館において8月15日まで開催中の企画展「学生作品選抜展2021」では、建築・工芸・インテリアデザイン・服飾デザイン・美術教育教材・情報教育教材など多彩な分野から、名古屋女子大学家政学部生活環境学科、文学部児童教育学科、名古屋女子大学短期大学部生活学科・保育学科の学生たちの令和2年度制作の選抜作品をご覧ください。

本作品展の中から卒業制作3作品が中部デザイン協会「WEB 卒業制作奨励選抜展」奨励賞を受賞しました。中部エリアの芸術関連大学等から令和2年度の卒業制作として選抜された作品に授与されるもので、これら作品は卒業後も同協会のWebサイトで1年間公開され、学生たちの制作の励みとなっています。

(文責：鈴木孝子)



「魚のメリーゴーランド」
文学部児童教育学科卒業



「心」
短期大学部生活学科卒業



「日常の中間領域」
家政学部生活環境学科卒業

※上記作品は、越原記念館企画展「学生作品選抜展2021」(2021.3/13～8/15)にて展示しています。

絵本おはなし会

学生主体の地域貢献活動の一環として、大学図書館と瑞穂図書館のコラボ企画として開催している『学生ボランティアによるおはなし会』について、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため定期的な実施を見合わせていましたが、状況が緩和した11月と12月に開催することができました。当日は感染防止対策として、定員制とし、対面読みを中止するなど制約の中での実施となりましたが、再開を心待ちにしていた子どもたちの参加で好評のうちに開催することができました。開催に向け、学内での研修を行うなど準備をすすめてきた学生にも貴重な経験の機会となりました。

(文責：尾崎友子)



12月に開催したおはなし会

開かれた地域貢献事業

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」として、地域の公共施設である名古屋市瑞穂児童館と名古屋市瑞穂保健所との連携事業は14年目となり、平成30年度からはじまった瑞穂区役所との連携事業は3年目となりました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者の安全を考慮し、一部の事業については残念ながら開催を見送ることとなりました。

その中で、年間を通して開催している瑞穂児童館との共催事業については、保育・教育、生活関係の6つの講座と、12月のクリスマスイベントを無事に開催することができました。地域の子どもや保護者を対象としたこれらの講座とイベントは、手指の消毒や換気等の基本的な感染対策に加え、会場の広さに応じて定員を設けた

り、開催時間を短縮したりと、参加者が安全に講座・イベントを楽しむことができるよう試行錯誤を行いながら実施しました。参加した学生たちは、様々な制約がある中でも、事前に入念に準備をした上で活動に臨むことができたようです。

これらはいずれも、健康科学部健康栄養学科、文学部児童教育学科、短期大学部生活学科・保育学科の教員と学生の有志および総合科学研究所の教職員が協力して実施したもので、限られた定員の中で多くの方にご参加いただきました。今後とも一層地域の公共施設との連携を深めながら、新しい生活様式に沿った安全な地域貢献事業に取り組んで参ります。

(文責：総合科学研究所事務)



お子さんの写真を使ったカード作り



木材を使ったおもちゃ作り



クリスマスのイルミネーション

瑞穂区による 3つのポリシーを踏まえた点検・評価

本学では、令和元年度から包括連携協定先の瑞穂区役所により、入学者選抜方法、カリキュラムの内容、学修の方法・支援・成果等について点検評価を受けています。

点検評価の背景には、少子化による教育の質保証に対する関心の高まりがあり、各大学にはその取組が3つのポリシー（卒業の認定、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する各方針）を踏まえて適切に行われているか、学外者の参画を得た検証が求められています。

大学にとって、地域社会などの外部評価を得ることは、教育に客観的な視点を取り入れる契機となり、地域社会にとっては、大学がどのような方針で教育を行っているかを検証することで、大学との間で育成すべき人材像の共有や、新たな連携の形がはぐくまれるというメリットがあります。

今年度は大学入学共通テストを含む入試改革、コロナ禍における図書館の遠隔サービス等について、本学の取組を紹介しました。今後も学修者本位の教育を実施し、質保証のための取組を継続してまいります。

(文責：各務佳子)



大学図書館での取組紹介の様子

編集後記

地域連携ニュースレター第4号をお届けします。令和2年度も名古屋市、瑞穂区、地域企業等との様々な連携事業が実施されました。「名古屋土曜学習プログラム」や「絵本おはなし会」等の継続的に実施されている事業とともに、「消費生活フェア」や「児童虐待防止オレンジキャンペーン」等の新しい取り組みについてもお伝えすることができました。ご協力いただいた皆様に厚く感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染予防のため中止となった事業も多かった一方で、実施された事業においては感染予防の為の様々な配慮や工夫が求められました。これらの経験が今後の事業に活かされ、さらに新たな活動につながっていくことを期待いたします。

(文責：山中なつみ)